

<p><b>活動タイトル</b></p>	<p><b>困難を抱えた家庭への訪問型相談を中心とした支援</b></p>		<p><b>団体名</b></p>	<p><b>NPO法人まちづくりLAB</b></p>							
<p><b>1年間の活動 (アウトプット)の目 標 (事業全体)</b></p>	<p>【訪問型相談支援事業】 ・ 相談のあった家庭に“訪問相談員”が訪問し、児童及び保護者の状況やニーズを聞き取る。 ・ 訪問相談員が定期的な訪問を行うことにより、家庭状況の把握及び改善を目指す。</p> <p>【訪問型サポート事業 ゆうがおサポート】 ・ “ゆうがおサポーター”（大学生ボランティア）を派遣し、週1回程度の訪問を行う。 ・ 訪問支援員は訪問相談員の立てた支援計画を基に、学習のみならず児童の相談に乗ったり、気持ちの整理のサポートをしたりして、児童のエンパワメントを図る。 ■ 利用料 1時間1,500円</p>		<p><b>■ 活動報告</b></p>	<p><b>■ 活動風景</b></p>							
<p><b>■ 活動報告</b></p> <p>助成期間での訪問支援延回数は651件であった。2018年度は増える相談に対応するために、当法人の支援はどうあるべきかを考える期間となった。 より複雑化したケースに柔軟に対応するために、2019年度より訪問型相談支援事業と訪問型サポート事業ゆうがおサポートの2本柱にすることにより、訪問相談員とゆうがおサポーターが明確な役割分担を行い、支援することができた。 支援の実績が認められ、2019年度より大野城市教育委員会教育指導室との共働事業を行うことができた。また、2019年9月より福岡市の委託事業を受け、訪問支援を行っていただけるようになった。 行政と情報共有がしやすくなったことにより、より密接に寄り添った支援を行っていただけるようになった。 また、支援対象の状況評価指数を作成し、それを活用し、支援対象の状況を判断することにより、支援状況のスタッフ間での共有がしやすくなった。さらに、支援の効果を客観的に判断することもできるようになった。</p>	<p><b>■ 1年間の目標に対する達成状況</b></p> <p>2018年9月から2019年8月までの訪問相談回数は当初の目標である300回に対し、198回であった。ゆうがおサポートの訪問支援も加えると、651回の訪問支援を行う結果となった。 2018年度は当法人の訪問支援の認知度が上がり、児童相談所などからも多くの相談を受けることとなった。しかし、相談が増えるにつれ、内容の複雑化、重篤化が見られ、一つひとつの支援に時間がかかるようになった。加えて、当法人の訪問相談員は1名であり、様々な事務作業も行っていただけもあり、相談員の多忙さがあった。これらが訪問相談の回数を伸び悩ませた課題と思われる。 そのため、2019年度から、事務機能を独立させ、事務局をつくり、訪問相談員は支援に専念できる体制に変更した。また、訪問相談の体制も調整を行い、支援が入りやすいケースと、入りにくいケースを誰が対応するかの整理も行い始めた。 これらの変更により、2018年度（2018年9月～2019年3月）の訪問相談回数の平均は約12回に対し、体制を変更した2019年度（2019年4月～8月）は約22回となっており、その効果も少しずつ見えてきている。 今後の課題として、訪問相談ができる相談員を増員するために育成していく必要がある。</p>	<p><b>ケア検討会議</b></p> <p>月1回、訪問支援を行う訪問相談員とゆうがおサポーターが集まり支援の進捗状況について話し合います。</p>		<p><b>訪問支援研修会</b></p> <p>訪問支援を行うゆうがおサポーターに対して、訪問支援を行っていく際、必要な知識を学ぶ研修を行います。</p>							
<p><b>■ 1年間の活動のまとめ</b></p> <p>助成期間においては、当法人の訪問相談員が、内閣府の主催するアウトリーチの研修を受けたこともあり、当法人のアウトリーチ支援を根本から見直す機会となった。 そのため、支援活動に十分に力を入れられていなかったが、その分、支援体制は安定した形になることができた。 今後は、助成期間に完成した「訪問相談支援事業」と「訪問型サポート事業 ゆうがおサポート」の2本柱を据えながら、行政と連携し、展開していきたい。 一方で、増加する相談に対応していくためにも、訪問相談員の増員が不可欠である。 今回作成した状況判断シートを活用しながら、訪問相談員を目指すスタッフに任せるケースと、そうでないケースで見分けながら、研修だけでなく、実践も通した研修を行っていく。</p>	<p><b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b></p> <p>助成期間の実施と、訪問相談員が行った内閣府の全国のアウトリーチ研修により、訪問相談研修の形づくりを行うことができた。 しかし、基礎的なもののほかに発展的な支援の知識を持つ必要があるため、今後そのような研修を行ってきたいと思う。 また、支援対象の客観的な評価指標を作成したことにより、どのような状況の子にどのようなアプローチをしたら良かったかを積み重ねやすくなった。 今回の実施だけでは不十分であるが、今後、実践を積み重ね、ノウハウを作っていく。</p>	<p><b>■ 実施した人材育成策</b></p> <p>訪問相談研修会を開催しました。今後は、発展的な訪問相談の研修会を行うことにより、訪問相談員の育成を行う。 また、ゆうがおサポーターの育成のために今後、新しいキャンペーン等を行い、大学生にボランティア情報が広く伝わるような仕組みづくりを行う予定である。</p>	<p><b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1622 1248 1796 1360"> <p><b>この1年間の活動を通じて</b></p> </td> <td data-bbox="1796 1248 2220 1360"> <p><b>当法人の訪問支援体制の構築</b></p> </td> <td data-bbox="2220 1248 2427 1360"> <p><b>を達成しました。</b></p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="1622 1360 2427 1693"> <p><b>■ 受益者の変化（効果測定結果等）</b></p> <p>大きく変化するというより、どれも長期的にみるといい方向に動いているという状態であった。子どもの変化には非常に保護者の変化の影響が強く、保護者の状態が安定すると子どもの状況も良い方向に変化しやすかった。 今後、保護者の状況が安定できるような支援も考えていく必要がある。</p> <p>一方、悪化したケースは少なく、訪問支援を行うことにより、状況の悪化を防ぐことができ、時間をかければ状況改善を行っていただけることが分かった。</p> </td> </tr> </table>			<p><b>この1年間の活動を通じて</b></p>	<p><b>当法人の訪問支援体制の構築</b></p>	<p><b>を達成しました。</b></p>	<p><b>■ 受益者の変化（効果測定結果等）</b></p> <p>大きく変化するというより、どれも長期的にみるといい方向に動いているという状態であった。子どもの変化には非常に保護者の変化の影響が強く、保護者の状態が安定すると子どもの状況も良い方向に変化しやすかった。 今後、保護者の状況が安定できるような支援も考えていく必要がある。</p> <p>一方、悪化したケースは少なく、訪問支援を行うことにより、状況の悪化を防ぐことができ、時間をかければ状況改善を行っていただけることが分かった。</p>		
<p><b>この1年間の活動を通じて</b></p>	<p><b>当法人の訪問支援体制の構築</b></p>	<p><b>を達成しました。</b></p>									
<p><b>■ 受益者の変化（効果測定結果等）</b></p> <p>大きく変化するというより、どれも長期的にみるといい方向に動いているという状態であった。子どもの変化には非常に保護者の変化の影響が強く、保護者の状態が安定すると子どもの状況も良い方向に変化しやすかった。 今後、保護者の状況が安定できるような支援も考えていく必要がある。</p> <p>一方、悪化したケースは少なく、訪問支援を行うことにより、状況の悪化を防ぐことができ、時間をかければ状況改善を行っていただけることが分かった。</p>											